化学殺虫剤

トクチオン乳剤

有効成分：プロチオホス　（PRTR・1 種）45.0%

作用機構分類：殺虫剤分類 1B

登録番号：第１３４２６号
性状：淡黄褐色可乳化油状液体
その他成分：キシレン（PRTR・1 種）18.8%、
エチルベンゼン（PRTR・1 種）17.6%
有効年限：4 年
包装：500ml×20 本
危険物：第 4 類第 2 石油類危険等級 III

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾌﾟﾛﾁｵﾎｽを含む農薬の総使用回数
みかん	ｺｶｸﾓﾝﾊﾏｷ、ﾌﾗｰﾊﾞﾗｿﾞｳﾑｼ	1000倍	200～700L/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ﾌｼﾞｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ	1000～1500 倍					
なし	ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類、ﾊﾏｷﾑｼ類	1000倍		収穫60日前まで	5回以内		5回以内
かき	ｶｷﾉﾍﾀﾑｼｶﾞ、ﾌｼﾞｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ ﾏｲﾏｲｶﾞ、ｱｻﾞﾐｳﾏ類、ﾊﾏｷﾑｼ類			収穫75日前まで	2回以内		2回以内
くり	ﾓﾓﾉｺﾞﾏﾀﾞﾗﾉﾒｲｶﾞ ﾈｽｼﾞｷﾉｶﾜｶﾞ			裂果前まで（但し収穫7日前まで）	5回以内		5回以内
キャベツ	ｺﾅｶﾞ、ﾖﾄｳﾑｼ、ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ、ｱｵﾑｼ ｳﾜﾊﾞ類、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類		100～300L/10a	収穫21日前まで	2回以内		2回以内
たまねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳ ﾈｷﾞﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ			収穫7日前まで	4回以内		4回以内
		16倍	1.6L/10a			無人航空機による散布	
		8倍	0.8L/10a				
	ｱｻﾞﾐｳﾏ類	300倍	25L/10a			散布	
にんにく	ﾈｷﾞｺｶﾞ ﾁｭｰﾘｯﾌﾟｻﾋﾞﾀﾞﾆ ｱｻﾞﾐｳﾏ類	1000倍	100～300L/10a	収穫14日前まで	3回以内		3回以内
ばれいしょ	ｼﾞｬｶﾞｲﾓｶﾞ、ﾖﾄｳﾑｼ、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類						
かんしょ	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ			収穫21日前まで			4回以内（植付前の土壌混和は1回以内、散布は3回以内）
	ﾅｶｼﾞﾛｼﾀﾊﾞ	1000～2000倍					
あずき	ｱｽﾞｷﾉﾒｲｶﾞ、ﾂﾒｸｻｶﾞ	1000倍		収穫30日前まで	2回以内		2回以内
	ﾊﾀﾞﾆ類	1000～1500倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾌﾟﾛﾁｵﾎｽを含む農薬の総使用回数
だいず	ﾏﾒｼﾝｸｲｶﾞﾊﾀﾞﾆ類	1000～1500倍	100～300L/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾏﾀﾞﾗﾒｲｶﾞﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類ﾂﾒｸｻｶﾞ、ｶﾒﾑｼ類	1000倍					
いんげんまめ	ﾊﾀﾞﾆ類			収穫21日前まで			
てんさい	ﾖﾄｳﾑｼ、ｶﾒﾉｺﾊﾑｼｱﾌﾞﾗﾑｼ類	1000～1500倍		収穫30日前まで	2回以内		2回以内
	ﾃﾝｻｲﾓｸﾞﾘﾊﾅﾊﾞｴﾃﾝｻｲﾄﾋﾞﾊﾑｼﾊﾀﾞﾆ類	1000倍					
茶	ﾊﾏｷﾑｼ類、ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏｶﾝｻﾞﾜﾊﾀﾞﾆ、ﾁｬﾄﾞｸｶﾞ		200～400L/10a	摘採21日前まで	1回		1回
さとうきび	ｱｵﾄﾞｳｶﾞﾈﾊﾘｶﾞﾈﾑｼ類		1.8L/m^2	収穫90日前まで	2回以内	土壌灌注	2回以内（植付時の土壌混和は1回以内）
にら	ﾈﾀﾞﾆ類	2000倍	3L/㎡	収穫21日前まで	1回	株元灌注	2回以内（土壌混和は1回以内、株元灌注は1回以内）
らっきょう				収穫60日前まで			1回
ねぎ	ｱｻﾞﾐｳﾏ類ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳﾈｷﾞｺｶﾞﾈｷﾞﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	1000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内（定植時の土壌混和は1回以内、散布及び株元灌注は合計3回以内）
	ﾈﾀﾞﾆ類	2000倍	3L/㎡			株元灌注	
いちご	ﾊﾀﾞﾆ類、ｷﾝｹｸﾁﾌﾞﾄﾞｳﾑｼ成虫	1000倍	100～300L/10a	収穫75日前まで	3回以内	散布	3回以内（仮植床植付時の土壌混和は1回以内）
花き類・観葉植物（ばら、きく、プリムラ、シクラメン、ベゴニア、宿根かすみそうを除く）	ｱｻﾞﾐｳﾏ類、ﾊﾀﾞﾆ類			発生初期	5回以内		5回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾌﾟﾛﾁｵﾎｽを含む農薬の総使用回数
ばら	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ﾌﾗｰﾊﾞﾗｿﾞｳﾑｼ ｱｻﾞﾐｳﾏ類、ﾊﾀﾞﾆ類	1000倍	100～300L/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内
きく							
プリムラ シクラメン ベゴニア	ｷﾝｹｸﾁﾌﾞﾄｿﾞｳﾑｼ成虫 ｱｻﾞﾐｳﾏ類、ﾊﾀﾞﾆ類						
宿根かすみそう	ﾖﾄｳﾑｼ、ﾅｽﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ｱｻﾞﾐｳﾏ類、ﾊﾀﾞﾆ類				6回以内		6回以内
つばき類	ﾁｬﾄﾞｸｶﾞ、ﾌﾗｰﾊﾞﾗｿﾞｳﾑｼ		200～700L/10a		3回以内		3回以内
さくら プラタナス	ｱﾒﾘｶｼﾛﾋﾄﾘ ﾌﾗｰﾊﾞﾗｿﾞｳﾑｼ				4回以内		4回以内
樹木類（つばき類、さくら、プラタナスを除く）	ﾌﾗｰﾊﾞﾗｿﾞｳﾑｼ				5回以内		5回以内
たばこ	ﾀﾊﾞｺｱｵﾑｼ、ﾖﾄｳﾑｼ、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類 ｼﾞｬｶﾞｲﾓｶﾞ、ｱｻﾞﾐｳﾏ類		25～180L/10a	収穫10日前まで	2回以内		2回以内
芝	ｼﾊﾞﾂﾄｶﾞ		0.5～1L/m^2	発生初期	3回以内		5回以内

［特　長］

＊野菜、果樹、茶、花き類・観葉植物などに発生する多くのチョウ目害虫（ハマキムシ類、コナガ、ヨトウムシなど）、ハダニ類、アブラムシ類、コナカイガラムシ類、アザミウマ類に優れた効果を示します。

＊接触毒と食毒の作用を持ち、効果の発現はやや遅効的ですが、長期間効果が持続します。

［使用上の注意事項］

＊使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
＊ボルドー液および石灰硫黄合剤との混用は可能であるが、混合後は放置せずなるべく早く使用すること。
＊芝に使用する場合は、土壌面までぬれるように十分な液量（0.5～1L/m² ）を散布すること。
＊本剤の作用はやや遅効性であるので、害虫の発生をみたら早めに散布すること。
＊茶のカンザワハダニの防除の場合、夏場からのハマキムシ類との防除適期が一致する時期に使用すること。
＊茶の覆下栽培では薬害を生じる場合があるので使用しないこと。
＊さとうきびのハリガネムシ防除に使用する場合、夏植栽培では翌年の 4～6 月頃、株出栽培では萌芽後に所定希釈液を 1m²当り約 1.8L 灌注すること。
＊すいか、トマト、メロンには薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。
＊たまねぎに対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用すること。
＊にらに使用する場合は、前作のにらを地際から刈り取りした後、できるだけ速やかに株元灌注し、希釈液が直接茎葉にかからないにように注意すること。
＊カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないこと。また、使用後 14 日間は入水しないこと。
＊蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
＊ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
（1）ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
（2）受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
（3）関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
＊フラーバラゾウムシに使用する場合は、植物防疫所、病害虫防除所等関係機関の指導のもとに実施すること。
＊適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

［安全使用上の注意事項］

＊誤飲などのないよう注意すること。
＊本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
＊本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。皮膚に付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
＊散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
＊作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
＊かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
＊本剤は自動車に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意すること。
＊街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

＊水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
＊無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
＊使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないように適切に処理すること。
＊危険物第 4 類第 2 石油類に属するので火気には十分注意すること。
＊原液が直接皮膚に付着した場合、そのまま放置すると発赤することがあるので、付着した場合には石けん等でよく洗い落とすこと。
＊直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。
治療法…本剤の解毒剤としては動物実験で硫酸アトロピン製剤が有効であると報告されている。